宮代町立須賀小学校の再整備等地域拠点施設整備プロジェクトチーム
視察研修（沼田町暮らしの安心センター）

１　日時・場所

令和５年１０月２５日（水）１６：１５～１７：１５

北海道沼田町暮らしの安心センター

２　出席者

沼田町：横山町長

沼田町保健福祉課：按田課長

　　暮らしの安心センター：森田センター長

Studio-L：山本氏

宮代町：新井町長、小川副課長、吉田副課長、関根主幹、高林主査、高橋主査、島村主事、須原主事、福満主事、山下主事

東畑建築事務所設計室：久保主管、門脇技師

Life Work：内海氏

３　施設概要

更新の概要	町全体の人口の減少と診療所の老朽化に伴い、機能集約も兼ねた建替
設計コンセプト	小中学校、こども園、診療所やスーパーなど生活に必要な施設を、沼田駅を中心とした半径約５００ｍの範囲内に建設し、町の機能をコンパクトにまとめようという町の計画に基づく。 医療、福祉・子育て、介護の３要素を集結している。人々が出会い、交流し、支えあう、町の広場であらゆる世代のあらゆる人々が自然に過ごす場所になることを目的としている。
複合機能	・医療施設(沼田厚生クリニック) ・介護福祉施設(デイサービスセンター) ・あんしんセンター(暮らしの保健室)
施設概要	建築構造　コンクリート造、一部木造　平屋 施設規模　敷地面積　　９，７２１．７４㎡ 　　建物面積　　１，８９４．０８㎡ 　　(第一期：８５９．５１㎡　第二期：１，０３４，５７㎡) 　　地上１階 ※第一期：診療施設 　第二期：デイサービスセンター、地域安心センター

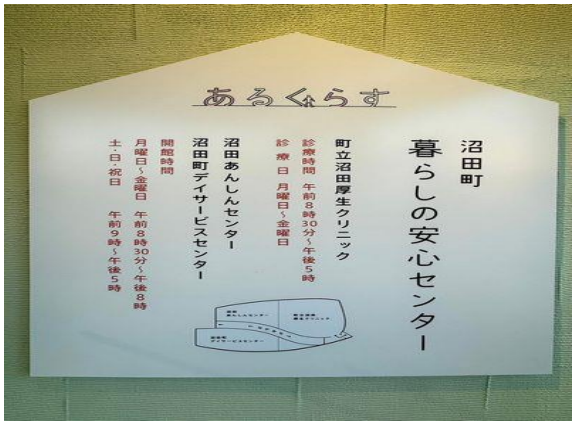
	＜図面＞ 引用：architecturephoto（https://architecturephoto.net/104139/）
建設期間	第一期：平成２８年６月～平成２９年２月 第二期：平成２８年７月～平成２９年８月
開設年	平成２９年１０月

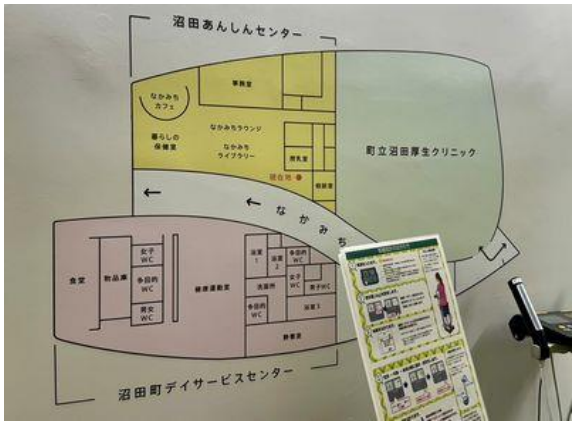
本体工事費	７６４，４０２千円 （第一期：３４７，２７２千円　第二期：４１７，１３０千円）
防災機能	・福祉避難所として指定されている。 ・消火設備、非常電源設備のみ

４　現地視察

（１）施設の特徴等について

沼田町暮らしの安心センターは、ラウンジやカフェ、読書スペースのある「沼田安心センター」と介護福祉エリアである「沼田デイサービスセンター」、町立沼田厚生クリニックが併設されている。施設内を「なかみち」が通っており、施設全体を回廊できるようになっている。





・施設内を通る「なかみち」があることで、各施設のつながりをうまく演出し、施設内の開放感をつくっている。また天候に左右されずに活動することができる。診療所や施設に通うお年寄りが、リハビリで施設内を歩行しながら他利用者と交流が図れる造りである。

・「なかみち」は、施設外の敷地や他施設とも連結しており、エリア一帯のつながりを演出している。

建物のコンセプトを「家」としている。照明を暖色にしたり、建物の随所にくつろげるスペースを設けるなど、気軽に建物を利用できる環境づくりがなされている。
ラウンジにあるカフェにはランチに来る若い世代の人も多く、利用しやすいような値段設定のメニューが多い。

・コンセプトが「家」ということから、電球を暖色にする等のくつろぎ空間の演出が見られる。
・構造がＲＣ造と木造で、木材をふんだんに使った内観となっており、居心地のよい雰囲気を演出している。
・カフェがあることで滞在できるスペースができている。ランチ等に来るだけでなく、目的がなくとも集える場所になっている。

トレーニングルームは、デイサービスなどの利用者の健康維持だけでなく、地域の若者にも多く利用されている。

・リハビリ室にはトレーニングマシンがあり、学生も来て一緒に身体を動かせる。専有スペースにしないことで、多世代交流が当たり前にできている。

クリニックやデイサービスセンターが、ラウンジなどと続いて設置されている。ラウンジと並んでいることで、クリニックの待合室をただ診察を待つ空間ではなく、あらゆる世代がすれ違い、腰を下ろして話せる「まちの縁側」になっている。

（２）開設までのプロセスについて

・開設にあたり、Studio-L の山本洋一郎氏が関わっており、他職種連携ワークショップや世帯ごとの住民ヒアリングを行うなど、地域と共に施設設計を行っている。

・町民と予算のことや、専門職(沼田町の場合は医師)の考え方を整理したり、施設でやりたいことの優先順位をつけるなど、度重なるワークショップが行われている。

・市民参加ワークショップだけではなく、関係部署職員へのワークショップを行うことでセンター建設についての情報共有や、庁舎内の方針確認がとれ、運用につながってい

る。
・かわら版を配布し、きめこまやかな情報発信を行った。
・例えば空き家の活用などワークショップで出たアイデアや意見は、できるものはすぐに実行するなど、副次的に施設外の活動を生みだしている。

（３）運営について

・社会福祉協議会の執務室があることで、職員により施設内に目が行き届く環境となっている。

（４）防災機能について
・福祉避難所としての位置付けになっている。消火設備、非常電源設備のみ設置されている。

5　所感

・施設を複合化することの最大のポイントは「出会える」「見える」ことだと感じた。
・複合化する際は、動線を区切らず、各フロアの様子をお互いが見ることができ、共存できるようにすべきだと感じた。
・地域の活動を活発にするために「つながりが生まれること」を大事にしていると感じ、つながりを生むためにソフト面にもハード面にも「活動が見える」ことを大事にしていると感じた。
・コンパクトシティを目指していて、宮代町も参考になると感じた。
・暮らしの安心センターの建設はコンパクトシティ化の一部で、今後はセンターの中を通る「なかみち」の周辺に、町民生活に必要な機能ができていく予定というのは面白いと思う。
・予算のシミュレーションワークショップは、限られた予算で実施することを地域の方々に理解してもらう場であると同時に、複数生じるアイデアから優先順位が見えてくるため、有効性を感じた。

・フリースペース等の家具の選定は丁寧に行う必要がある。場所や空間の使われ方を具体的にイメージしたうえで、家具を選ぶことが大切。